

2020 年度 白梅学園大学・白梅学園短期大学 授業評価アンケート結果報告

白梅学園大学・白梅学園短期大学 FD 委員会

本学では教育の質向上を目的とした点検評価活動の一環として、授業評価アンケートを 2002 年度（大学は 2005 年度）から実施してまいりました。今年度の授業評価アンケートでは、コロナ禍による遠隔授業の実施により、設問項目を大幅に見直し実施いたしました。実施にご協力くださった先生方には、心より御礼申し上げます。

以下、本年度の授業評価アンケートの概要および分析結果についてご報告いたします。

1. 授業評価の実施主体

白梅学園大学・短期大学 FD 委員会

2. 授業アンケート評価の実施方法

（1）授業アンケートの実施と結果分析

調査の実施および集計は白梅学園大学・短期大学教務課が行った。なお、結果分析については、FD 委員会が実施した。

（2）授業アンケートの実施方法

ア. 実施回数および方法

年度内に 2 回（前期と後期）、ウェブ上（学生ポータルサイト）にて行った。回答は無記名、受講学生の回答は昨年通り必須とした。

イ. 対象授業科目

全科目について実施（通年科目、実習指導関係の授業、ゼミを含む）。

ウ. 実施時期

実施期間は、前期は 12 日間、後期は 4 週間（回答率が低かったため、1 週間延長）。前・後期の実施期間・回答率は以下の通りである。

	実施期間	回答率	
		大学	短大
前期	2020 年 7 月 27 日（月）～8 月 7 日（金）	45.7%	48.4%
後期	2021 年 1 月 7 日（月）～2 月 7 日（日）	56.4%	74.9%

エ. 学生への周知

ポータルサイトから繰り返し周知を徹底した。

オ. 授業評価の結果公開

大学・短大全体の授業評価結果（全科目の総合集計結果）のみを本学HP上にて公開する。個別集計結果についてはウェブ公開しない。なお、教員各自が担当する科目の集計結果については、集計終了後に各教員に開示した。

3. 授業評価アンケートの質問項目（2020 年度版。下線は今年度用に追加・修正した項目）

（1）学生自身の自己評価

- 設問 1（学習目的） 私はこの授業で何を学ぶのかを明確に理解していた。
- 設問 2（学習態度） 私は授業をしっかりと視聴した（あるいは授業資料をしっかりと学習した）。
- 設問 3（学習態度） 課題や試験の準備に真剣に取り組んだ（でいる）。
- 設問 4（内容理解） 私はこの授業の内容を十分に理解することができた。
- 設問 5（総合評価） 私はこの授業に意欲的・積極的に取り組んだ。

（2）授業担当者に対する評価

- 設問 6（授業方針） 教員は授業の方法（WebClass 等の利用方法や機器・アプリの操作方法等を含む）や授業方針などを丁寧に説明していた。
- 設問 7（授業方法） 教員の授業方法や使用した教材に熱意や創意工夫が感じられた。
- 設問 8（基本項目） 教員の話し方、声、言葉は聞き取りやすかった。
- 設問 9（学生対応） 教員は学生の質問や相談に丁寧に対応し、トラブルの際には適切に対処していた。
- 設問 10（総合評価） この授業の教員は総合的に評価して良かった。

（3）授業内容に対する評価

- 設問 11（授業難易度） この授業の難易度は適切であった。
- 設問 12（授業方法） この授業の方法（オンデマンド・オンライン等）は適切であった。
- 設問 13（教科書等） この授業の教科書・配付資料・プレゼン内容は適切であった。
- 設問 14（授業内容） この授業から新しい知識、考え方、発想を学ぶことができた。
- 設問 15（総合評価） この授業は総合的に評価して良い授業であった。

（4）自由記述

- 設問 16（授業内容・方法全般） 授業内容・方法や学生対応など、この授業で良かった点があれば挙げてください。
- 設問 17（授業改善） 授業内容・授業方法・授業課題について改善点があれば挙げてください。また、実際に授業を受けてみて、困ったことがあれば挙げてください。
- 設問 18（その他） この科目に限らず、本学の授業について意見や感想等があれば、挙げてください。

カテゴリー（１）～（３）の回答選択肢は、１：そう思う（５ポイント）、２：ややそう思う（４ポイント）、３：どちらとも言えない（３ポイント）、４：あまりそう思わない（２ポイント）、５：全くそう思わない（１ポイント）の計５段階評価とする。

なお、コロナ禍による遠隔授業の実施により、上記の通り、設問項目を一部追加・修正した（設問２、６、７、９、１１、１２、１７、１８）。

３．授業評価アンケートの結果報告

（１）質問項目別にみる集計平均値（大学）

設問 番号	質問項目	前期	後期	2019 後期
1	私はこの授業で何を学ぶのかを明確に理解していた。	4.28	4.37	4.09
2	私は授業をしっかりと視聴した（あるいは授業資料をしっかりと学習した）。	4.59	4.55	
3	課題や試験の準備に真剣に取り組んだ（でいる）。	4.57	4.55	4.18
4	私はこの授業の内容を十分に理解することができた。	4.16	4.31	4.06
5	私はこの授業に意欲的・積極的に取り組んだ。	4.47	4.46	4.15
6	教員は授業の方法（WebClass 等の利用方法や機器・アプリの操作方法等を含む）や授業方針などを丁寧に説明していた。	4.32	4.39	
7	教員の授業方法や使用した教材に熱意や創意工夫が感じられた。	4.32	4.39	4.12
8	教員の話し方、声、言葉は聞き取りやすかった。	4.32	4.44	4.17
9	教員は学生の質問や相談に丁寧に対応し、トラブルの際には適切に対処していた。	4.29	4.39	
10	この授業の教員は総合的に評価して良かった。	4.35	4.42	4.16
11	この授業の難易度は適切であった。	4.21	4.32	4.07
12	この授業の方法（オンデマンド・オンライン等）は適切であった。	4.23	4.3	
13	この授業の教科書・配付資料・プレゼン内容は適切であった。	4.35	4.42	4.16
14	この授業から新しい知識、考え方、発想を学ぶことができた。	4.41	4.5	4.23
15	この授業は総合的に評価して良い授業であった。	4.36	4.44	4.18

(2) 質問項目別にみる集計平均値 (短大)

設問 番号	質問項目	前期	後期	2019 後期
1	私はこの授業で何を学ぶのかを明確に理解していた。	4.3	4.34	4.04
2	私は授業をしっかりと視聴した (あるいは授業資料をしっかりと学習した)。	4.62	4.53	
3	課題や試験の準備に真剣に取り組んだ (でいる)。	4.58	4.5	4.12
4	私はこの授業の内容を十分に理解することができた。	4.17	4.32	4.03
5	私はこの授業に意欲的・積極的に取り組んだ。	4.47	4.45	4.1
6	教員は授業の方法 (WebClass 等の利用方法や機器・アプリの操作方法等を含む) や授業方針などを丁寧に説明していた。	4.3	4.37	
7	教員の授業方法や使用した教材に熱意や創意工夫が感じられた。	4.34	4.38	4.07
8	教員の話し方、声、言葉は聞き取りやすかった。	4.31	4.42	4.14
9	教員は学生の質問や相談に丁寧に対応し、トラブルの際には適切に対処していた。	4.35	4.37	
10	この授業の教員は総合的に評価して良かった。	4.37	4.43	4.16
11	この授業の難易度は適切であった。	4.2	4.37	4.06
12	この授業の方法 (オンデマンド・オンライン等) は適切であった。	4.15	4.24	
13	この授業の教科書・配付資料・プレゼン内容は適切であった。	4.37	4.41	4.13
14	この授業から新しい知識、考え方、発想を学ぶことができた。	4.42	4.46	4.2
15	この授業は総合的に評価して良い授業であった。	4.39	4.45	4.17

前期の回答率は、大学が 45.7%、短大は 48.4%。後期の回答率は、大学が 56.4%、短大は 74.9%であった。前期の回答率が低い理由としては、例年より実施期間を短く設定したことが理由として考えられる。コロナ禍による遠隔授業の実施により、オンライン・オンデマンド授業の課題をいち早く把握するべく実施期間を短く設定したこと、また授業内での実施アナウンスが十分にできなかったためであると考えられる。

続いて、アンケートの結果であるが、比較のため 2019 年度後期の結果を併記した。学生自身の自己評価、授業担当者に対する評価、授業内容に対する評価の 3 つのカテゴリーに

おけるすべての設問項目において、前後期とも軒並みポイントが高くなっていることは注目に値すべき点である。これは、慣れない遠隔授業の実施にあたり、学生の学びを保証すべく各教員が創意工夫を凝らして授業を実施し、きめ細やかな学生指導を行なったことが一番の理由であることは間違いないだろう。その一方で、実に対面授業よりも遠隔授業の方が学習効果は高いのではないか、と考えられなくもない。当初、FD 委員会では、学生・教員ともに遠隔授業に不慣れなこの環境下において、例年よりも低い結果になるのではないかと危惧していたものの、その予想を大きく裏切る結果となったことは非常に喜ばしい限りである。先生方のご尽力に心から感謝したい。

以下、項目毎に見ていく。まず（１）「学生自身の自己評価」における設問２「私は授業をしっかりと視聴した」では、短大は大学に比べて、ややポイントは低いものの、設問３「課題や試験の準備に真剣に取り組んだ」の結果と総合するに非常に高い数値であり、学生たちも慣れない環境下で、非常に熱心かつ真面目に授業に取り組んだことが窺える。また、（２）「授業担当者に対する評価」と（３）「授業内容に対する評価」では、全ての設問項目において高い数値となっている。項目間に有意な差はみられないがゆえに、相関を分析するのが困難である。なお、自由記述をつぶさに見ていくと、前期で目立った「課題が多すぎる」「ネットや機器の不具合に起因するトラブルが多々あった」等の苦情・要望が、後期では激減し、代わって（これは致し方ないことであるが）実習関係の苦情（連絡が遅い等）が目立つ結果となった。特にオムニバス授業においては、教員間の連絡調整を密にいただき、学生の不安を少しでも解消していただければ幸いである。

（２）授業改善に向けての今後の課題

先生方には重ねてのお願いとなるが、授業評価アンケートの結果には、必ず目を通していただき、次年度以降の授業改善に役立てていただきたい。その際、必要に応じて、昨年度から導入している「授業支援メニュー制度」を利用して頂ければ幸いである。次年度は、教員・科目ごとに授業評価アンケート結果を学生にフィードバックできるように仕組みの導入を考えている。FD 委員会は、右図の PDCA の取り組みを通して、授業の更なる質的向上に取り組んでいく所存である。

本授業アンケートの結果について、ご意見・ご要望等あれば、気軽に FD 委員までお寄せいただきたい。

